

2014年2月25日

報道機関各位

調査レポート

グラフで見る東海経済（2014年2月）

【今月の景気判断】

東海経済は持ち直しが一服している。生産は、増税前の駆け込み需要に備えた増産が始まっているが、昨年中は横ばい圏で推移している。個人消費は、所得環境の改善を背景に緩やかに持ち直しており、冬のボーナス増により高額消費の好調が続いている。住宅投資は、契約ベースでの駆け込み需要がピークを過ぎても水準は安定している。一方で、公共投資は、補正予算による公共工事請負額の増加が一巡している。

今後も、生産は年度末近くまで高水準が続く見込みである。設備投資も一定の駆け込み需要が想定される。春闘では定昇に加え、ベアも期待できる情勢から、個人消費も持ち直し傾向が続くだろう。しかし、増税後は、生産や個人消費の反動減が避けられず、輸出が横ばいで推移すると見込まれる中、景気は一時的な低迷が予想されるが、公共投資や設備投資の下支えにより、景気後退局面に入ることは回避できる見込みである。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→			輸出	→		→
個人消費	↗			輸入	→		→
住宅投資	→			生産	→		
設備投資	↗		→	雇用	↗		→
公共投資	→		→	賃金	↗		↗

（注）1.3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シェード部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～米中および新興国の景気先行き、米FRBの金融政策、新興国の為替相場
- ・企業活動～設備投資の企業規模や業種における広がり、駆け込み需要に対応した生産動向、米中向け輸出
- ・家計～春闘での妥結結果、食品・エネルギー等の物価上昇、増税前の駆け込み需要と増税後の反動減

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 [名古屋] シニアエコノミスト 内田俊宏

〒461-8516 名古屋市東区葵1丁目19-30

TEL:052-307-1106

【各項目のヘッドライン】

項目	1月のコメント	2月のコメント	ページ
1. 景気全般	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	3～4
2. 生産	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	5～7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7～8
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10～11
6. 住宅投資	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している	12
7. 設備投資	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している	12～13
8. 公共投資	増加している	増加が一服している	13
9. 輸出入	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい	14～15
10. 物価	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	16
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は横ばい、負債総額は減少	16

（注）シャド一部分は前月と比較して見方を変更した項目（11. 金融、12. 倒産を除く）

（*）参考資料：「グラフで見る景気予報」 → <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】
8. 公共投資

1月の東海3県の公共工事請負額は、前年比－11.2%の372億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。季調済み前月比も－12.1%と2ヶ月ぶりに減少に転じた。

9. 輸出入

12月の実質輸出（季調済）は、前月比＋0.8%と小幅ながら2ヶ月ぶりに増加したが、横ばい圏での推移が続いている。また、1月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比＋13.0%と13ヶ月連続で増加したが伸びは鈍化した。

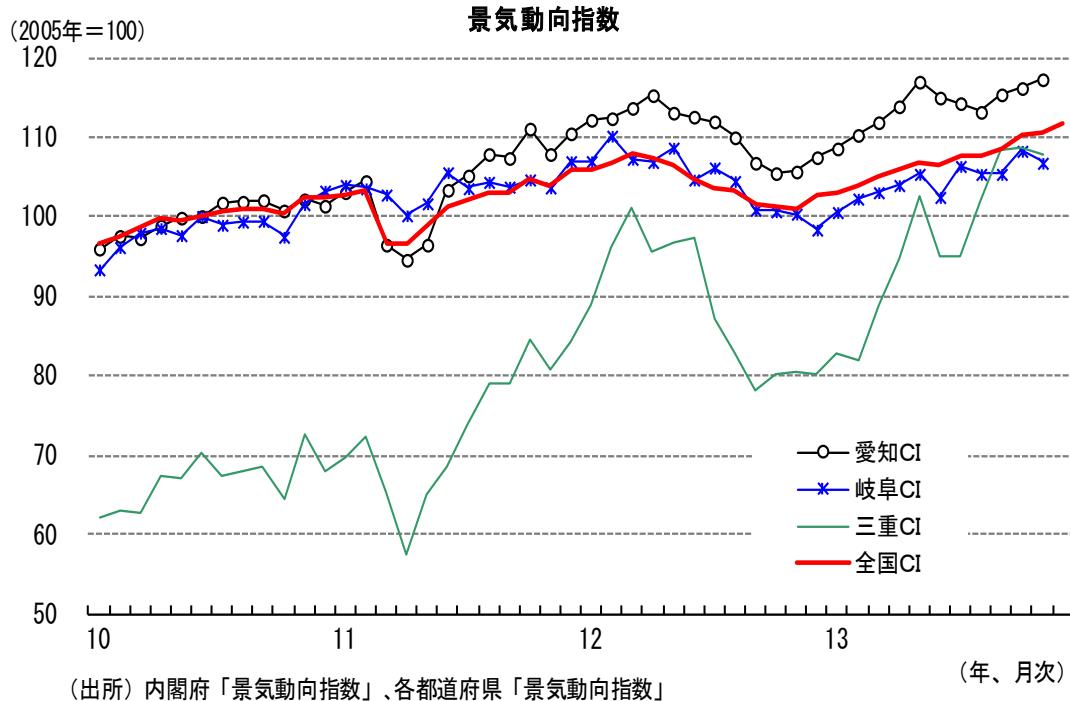
【主要経済指標の推移】

経 済 指 標		12 10-12	13 1-3	13 4-6	13 7-9	13 10-12	13 8	13 9	13 10	13 11	13 12	14 1
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	106.2	110.3	115.3	114.3		113.2	115.4	116.2	117.3		
	岐阜（C I、一致指数）	99.8	102.0	104.0	105.7		105.4	105.4	108.3	106.8		
	三重（C I、一致指数）	80.2	84.5	97.4	101.9		102.1	108.5	108.8	107.9		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI）	39.6	52.8	54.5	52.3	55.7	51.5	53.0	52.6	56.2	58.4	56.6
	（先行判断DI）	44.8	55.4	55.4	53.7	54.4	52.0	56.0	53.9	53.1	56.2	46.6
	短観業況判断D I（大企業製造業）	-17	-3	7	17	19	19<3月予想>					
	（中小企業製造業）	-15	-22	-11	-3	8	3<3月予想>					
（非製造業）	-6	-2	2	9	12	8<3月予想>						
	法人企業統計経常利益 製造業(兆円)	0.4	0.5	1.1	0.8							
	非製造業(兆円)	0.2	0.2	0.2	0.3							
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-2.0	4.5	1.7	0.8	-0.5	2.4	0.6	-1.5	-1.3	2.1	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-3.3	5.3	3.5	0.5	-0.6	-0.3	0.7	-0.8	-0.5	0.7	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.4	-4.1	-1.1	0.9	-3.1	0.4	1.9	-2.4	-3.0	-0.3	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-6.3	10.7	0.1	-3.1	1.0	0.7	2.1	0.7	-2.2	0.7	
	一般機械（ " ）	-3.0	-4.5	5.7	-0.3	5.4	-0.3	4.0	1.5	1.6	0.6	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	31.0	3.1	6.9	3.8	-5.7	6.2	-0.1	-11.0	2.6	6.2	
	プラスチック製品工業（ " ）	-2.0	2.8	0.5	-0.2	2.9	-4.1	5.9	1.2	-1.3	0.4	
	化 学（ " ）	-1.6	9.6	-2.8	-3.4	-1.0	-7.2	-1.9	6.2	-3.9	-1.5	
	電気機械（ " ）	-3.8	4.3	-2.1	5.6	3.3	-2.2	2.4	2.3	-0.3	1.1	
	鉄 鋼（ " ）	-7.1	6.5	3.5	-3.5	3.8	4.5	2.1	-1.4	0.8	5.2	
	金属工作機械受注 総受注(億円)	286.6	290.0	322.5	352.2	360.8	370.6	358.5	361.0	358.4	363.1	
国内受注(億円)	79.0	80.4	93.8	113.2	122.8	101.4	138.0	120.5	127.4	120.6		
海外受注(億円)	207.6	209.6	228.7	239.0	241.2	269.2	220.4	240.5	240.5	242.6		
大口販売電力量	-4.2	-6.3	-1.7	0.2	3.6	-1.2	0.9	4.7	2.5	3.7		
雇用	完全失業率（原数値、%）	3.3	3.4	3.5	3.1	3.3						
	就業者数（原数値、万人）	768	762	773	778	774						
	常用雇用指数 愛知	100.4	99.4	100.1	100.2		100.1	100.1	100.0	100.4		
	岐阜	99.5	98.7	99.0	98.9		98.7	98.8	98.5	98.7		
	三重	98.8	96.8	97.8	98.9		99.2	98.6	98.4	97.8		
	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.1	1.16	1.3	1.36	1.4	1.36	1.38	1.39	1.44	1.49	
	岐阜（季節調整値、倍）	0.9	0.98	1.1	1.10	1.2	1.09	1.12	1.17	1.21	1.23	
	三重（季節調整値、倍）	0.8	0.89	1.0	1.08	1.2	1.09	1.10	1.12	1.16	1.19	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍）	1.7	1.85	2.0	2.08	2.2	1.99	2.13	2.20	2.13	2.35	
	岐阜（季節調整値、倍）	1.4	1.50	1.7	1.66	1.8	1.66	1.72	1.75	1.79	1.71	
	三重（季節調整値、倍）	1.3	1.39	1.6	1.64	1.8	1.72	1.63	1.70	1.84	1.82	
賃金	現金給与と総額	-1.6	-0.5	1.2	0.9		0.5	0.2	1.8	1.3		
	所定内給与	-1.3	-0.1	0.8	0.3		0.6	0.2	0.8	0.6		
	所定外給与	-5.5	-4.0	-0.4	3.6		1.3	8.1	8.4	8.9		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入	1.3	5.7	6.6	1.8	7.0	-0.3	8.6	8.3	11.5	4.3	
定期収入	-4.2	3.5	-0.4	2.9	8.9	3.1	9.1	10.6	6.1	10.0		
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	-5.9	11.8	2.7	3.1	4.8	9.8	2.8	12.8	-2.9	4.6	
	百貨店販売額（名古屋市内）	0.6	3.6	7.8	4.0	5.4	9.5	4.5	2.0	8.3	5.7	7.8
	百貨店＋スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	0.0	-2.4	1.1	3.2	3.0	2.6	3.1	4.3	2.7	2.2	
	コンビニエンスストア販売額	-1.5	-1.4	0.3	0.3	1.4	0.4	-0.2	0.1	2.3	1.9	
	新車登録台数（含む軽）	-4.2	-10.4	-9.0	3.5	19.8	-2.2	22.8	21.7	15.3	23.0	
	家電販売額	-5.8	-4.0	2.3			4.7	-2.3	3.6	4.6	-1.9	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	38.0	43.7	46.3	45.0	41.1	44.1	45.6	41.4	41.9	40.0	41.2
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	24.6	29.7	29.1	27.5	26.0	26.3	27.7	27.1	26.0	24.8	30.9
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸）	107.2	105.8	114.6	122.0	120.2	120.4	125.4	117.7	124.1	118.7	
	（前年比、%）	16.7	8.4	18.1	19.7	11.7	13.1	25.6	7.0	17.3	11.5	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業）	0.9	12.3	10.1	30.3							
	（非製造業）	-15.6	17.9	-7.0	-12.9							
企業立地件数	—	—				17		11				
公共投資	公共工事請負額	15.4	-4.5	6.5	26.7	5.4	15.2	21.0	6.1	-2.5	13.0	-11.2
輸出入	実質輸出（季節調整値、07/12=100）	80.8	82.5	87.4	86.9	88.7	89.6	88.0	89.9	87.7	88.4	
	通関輸出（金額ベース、円建て）	0.2	6.7	10.9	16.6	22.0	16.0	20.6	23.9	22.0	20.1	13.0
	実質輸入（季節調整値、07/12=100）	93.1	95.2	97.3	98.0	95.7	97.2	101.6	92.0	96.0	99.1	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	-0.9	5.7	6.7	11.1	22.2	10.3	14.0	23.8	18.7	24.0	25.3
物価	消費者物価指数（除く生鮮）	0.0	-0.3	-0.1	0.6	1.1	0.7	0.6	0.9	1.2	1.3	
	（食料及びエネルギーを除く総合）	-0.4	-0.7	-0.3	0.0	0.8	0.1	0.1	0.5	0.8	1.0	
金融	国内銀行預金残高	1.6	1.1	1.6	1.9	2.6	2.4	1.5	1.8	3.4	2.6	
	国内銀行貸出残高	-0.6	0.0	1.6	2.3	2.4	2.3	3.0	2.4	3.3	1.5	
倒産	倒産件数	-20.3	-8.9	-12.5	-13.3	13.9	-33.7	-29.0	58.5	0.0	-11.4	0.0

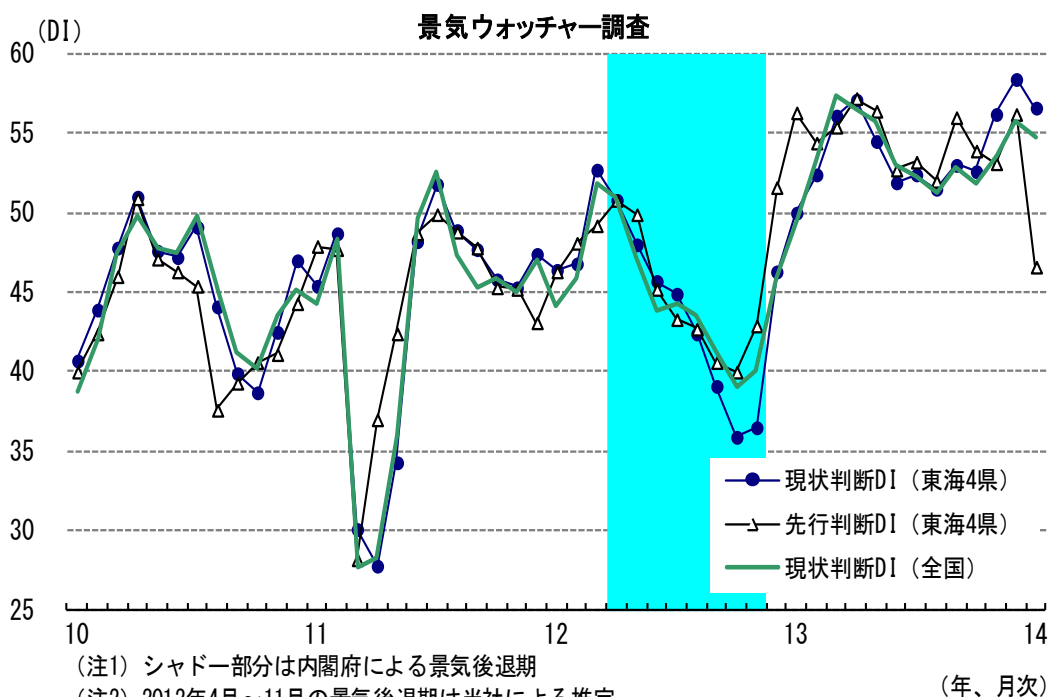
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～持ち直しが一服している

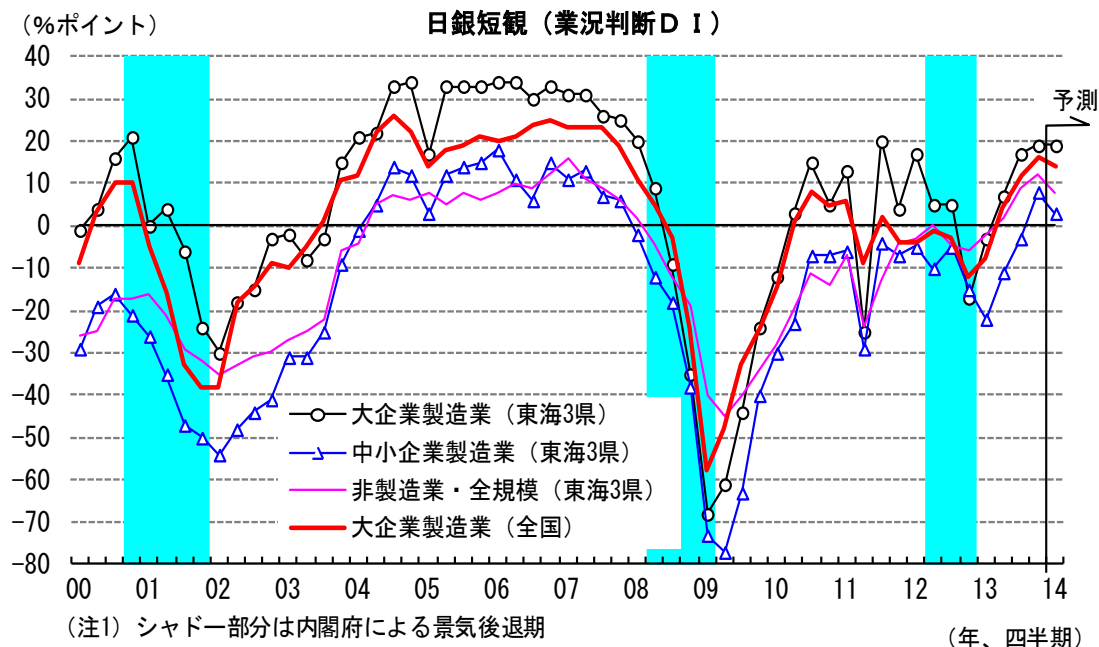
○11月の東海3県の景気動向指数・C I 一致指数は、愛知県が8系列のうち5系列でプラス寄与となり、前月差+1.1ポイントと3ヶ月連続で上昇した。岐阜県は前月差-1.5ポイント、三重県は前月差-0.9ポイント低下した。先行指数は、愛知県と三重県で上昇したが、岐阜県で低下した。



○1月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが前月差-1.8ポイントと低下した。年明け以降、株価が下落基調となったこともあり、家計動向関連の現状判断D Iも同-2.3ポイントと3ヶ月ぶりに低下している。東海4県の先行判断D Iは、消費増税後の景気の落ち込みを懸念し、同-9.6ポイントと大幅に低下した。景気の先行きに対する警戒感が高まっている。



○日銀短観 12 月調査では、東海 3 県の大企業製造業の業況判断 D I (「良い」-「悪い」)は+19 と、前回 9 月調査から 2 ポイント改善した。中小企業製造業も+8 と前回調査から 11 ポイント改善しプラスに転じた。徐々に中小の製造業への波及もみられるが、業況判断 D I の 3 月予測は、大企業製造業は+19 と横ばい、中小企業製造業が+3 と 5 ポイントの悪化が見込まれ、慎重な見方が続いている。



(注1) シャドー部分は内閣府による景気後退期

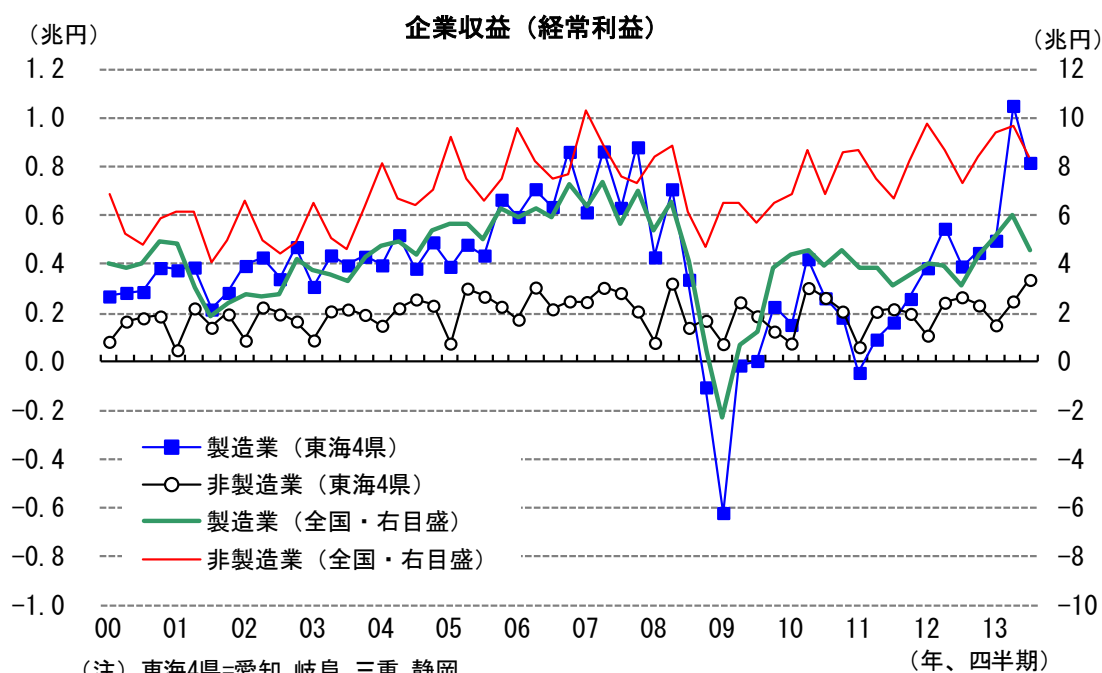
(注2) 2012年4月～11月の景気後退期は当社 (調査部) による推定

(注3) 調査対象企業見直し時における前回調査の計数は見直し後で接続。

(注4) 東海3県=愛知、岐阜、三重。

(出所) 日本銀行、日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」

○2013年7～9月期の東海4県の企業収益 (経常利益、製造業) は前期と同様に大幅な増益となった。円安に加え、米国や東南アジア向けの輸出が堅調に推移したことが影響している。ただし、トヨタの生産計画 (季調済) では13年10～12月期に減少見込みとなっており、製造業の企業収益への影響が懸念される。非製造業も前年同期比で+26.6%増加した。

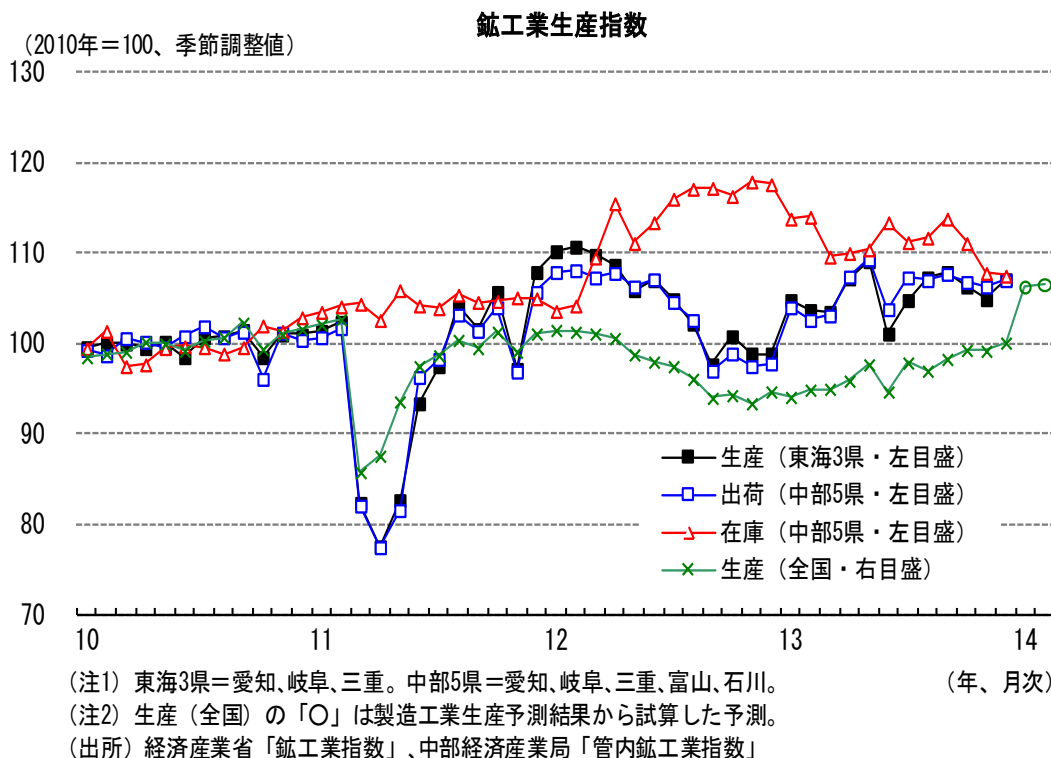


(注) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。

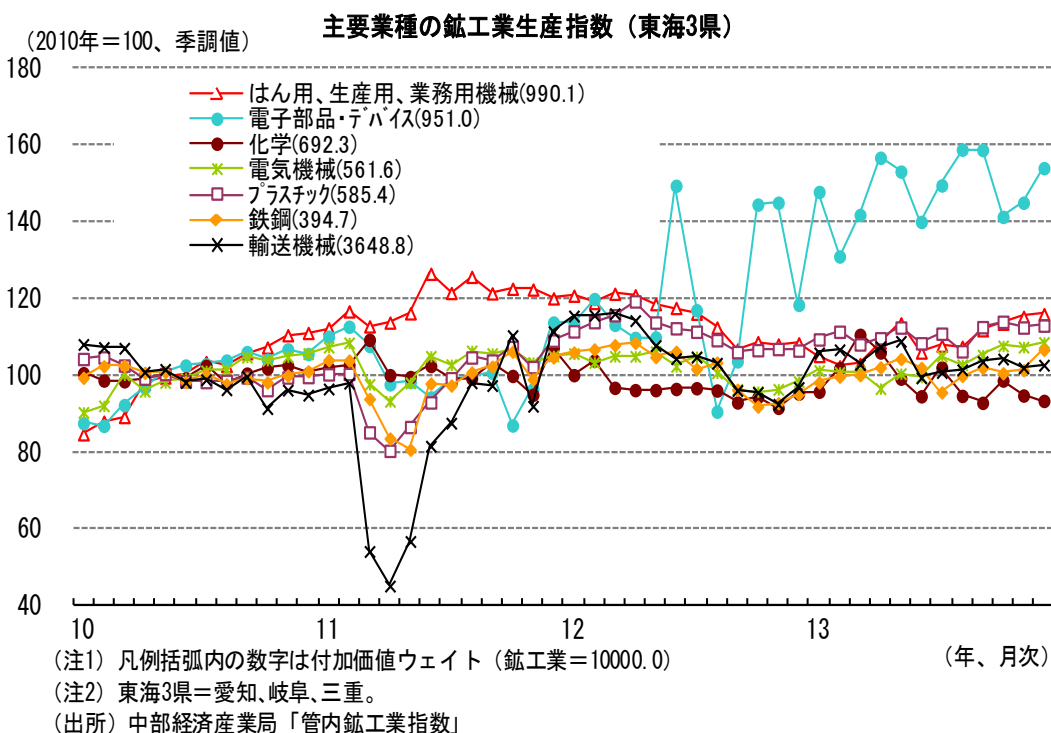
(出所) 財務省「法人企業統計調査」、東海財務局「四半期別法人企業統計調査」

2. 生産 ～横ばい圏で推移

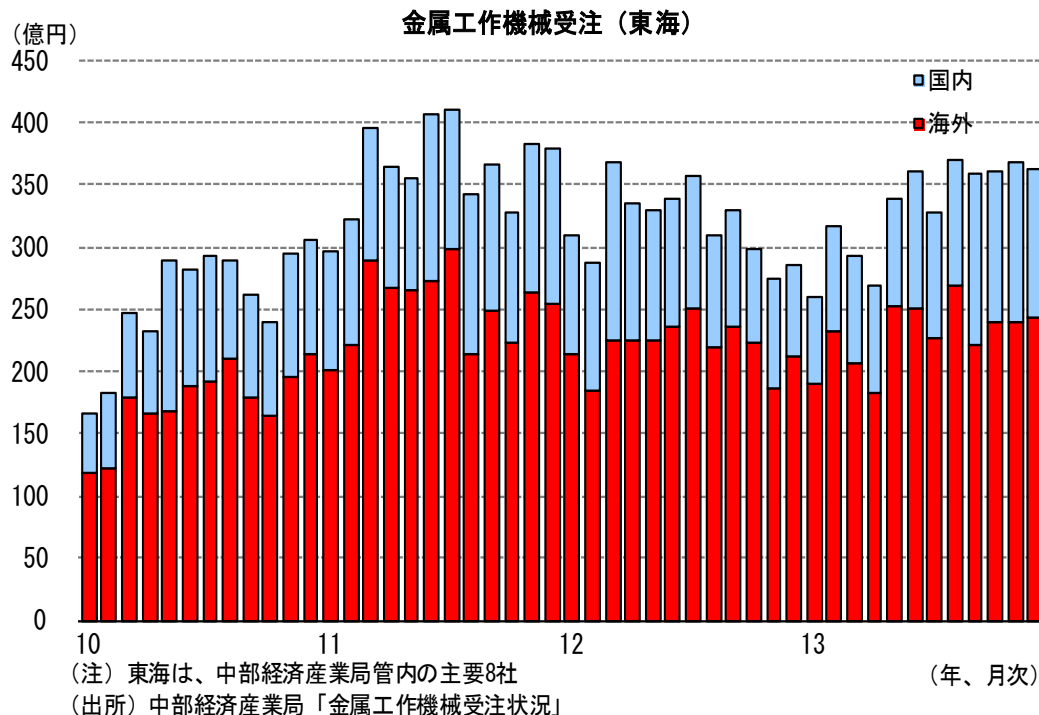
○東海3県の鉱工業生産指数は横ばい圏で推移しているが、12月の生産は、前月比+3.1%と3ヶ月ぶりに増加した。1～3月期も、増税前の駆け込み需要に備えて自動車生産などが大きく増加する見込みだが、4月の増税直後は、自動車販売が一時的に大幅に減少する見込みであり、自動車を中心に生産も減少が予想される（P. 11下図 トヨタ国内生産計画参照）。



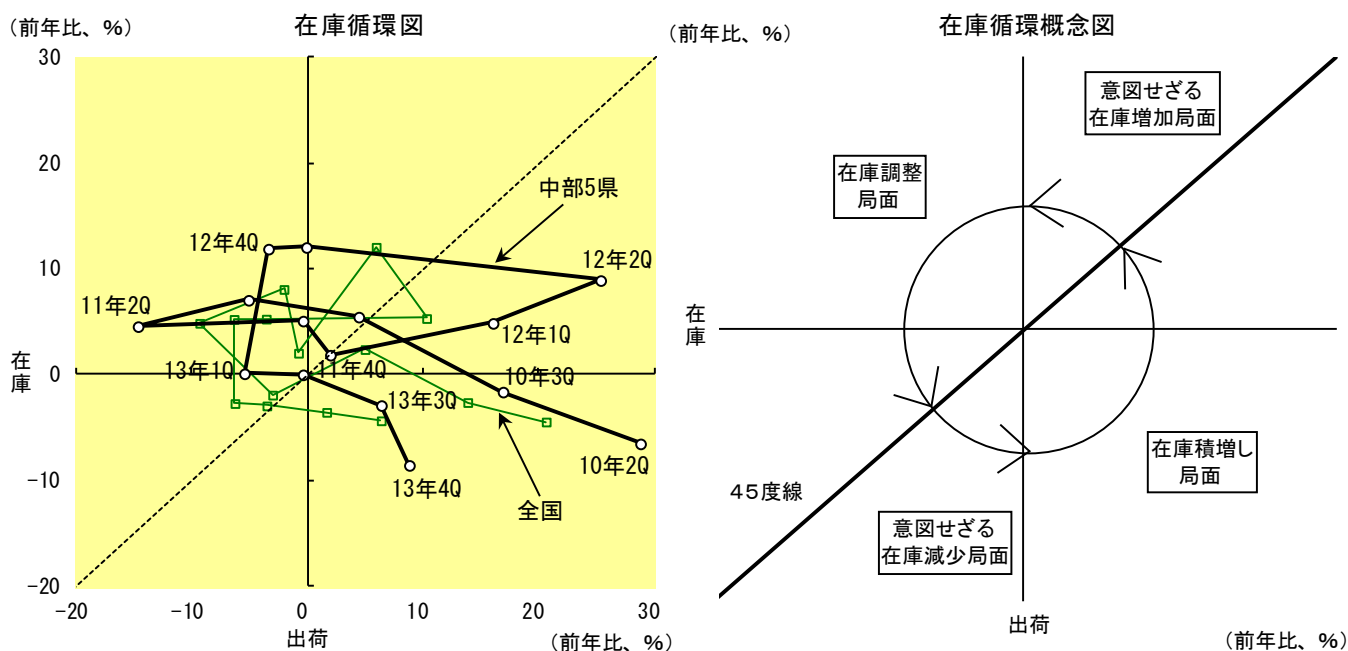
○業種別では、乗用車（前月比-5.1%）が3ヶ月連続で低下したものの、自動車部品（同+1.7%）や航空機部品（同+4.3%）などが上昇し、輸送用機械全体では同+0.7%と2ヶ月ぶりに上昇した。このほか、鉄鋼（同+5.2%）、電子部品・デバイス（同+6.2%）、電気機械（同+1.1%）、プラスチック（同+0.4%）、はん用・生産用・業務用機械（同+0.6%）なども上昇した。



○12月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+26.9%と5ヶ月連続で増加した。国内受注は、自動車向けや一般機械向けを中心に同+64.5%と5ヶ月連続で増加した。海外受注は、同+13.9%と3ヶ月連続で増加した。中国（同-12.4%）が減少したものの、アジア全体では同+7.5%と増加し、米国向け（同+16.2%）や欧州向け（同+40.2%）も増加した。



○12月の中部5県の出荷は輸送機械や鉄鋼、電気機械で減少し、前月比-2.5%と3ヶ月連続で減少した。在庫は、主力の輸送機械のほか、電子部品・デバイスなどで減少し、12月は同-2.7%となった。製造業全体では在庫調整圧力は薄らいでおり、駆け込み需要に備え、情報通信機械や化学などで在庫水準を引き上げる動きも出てきている。

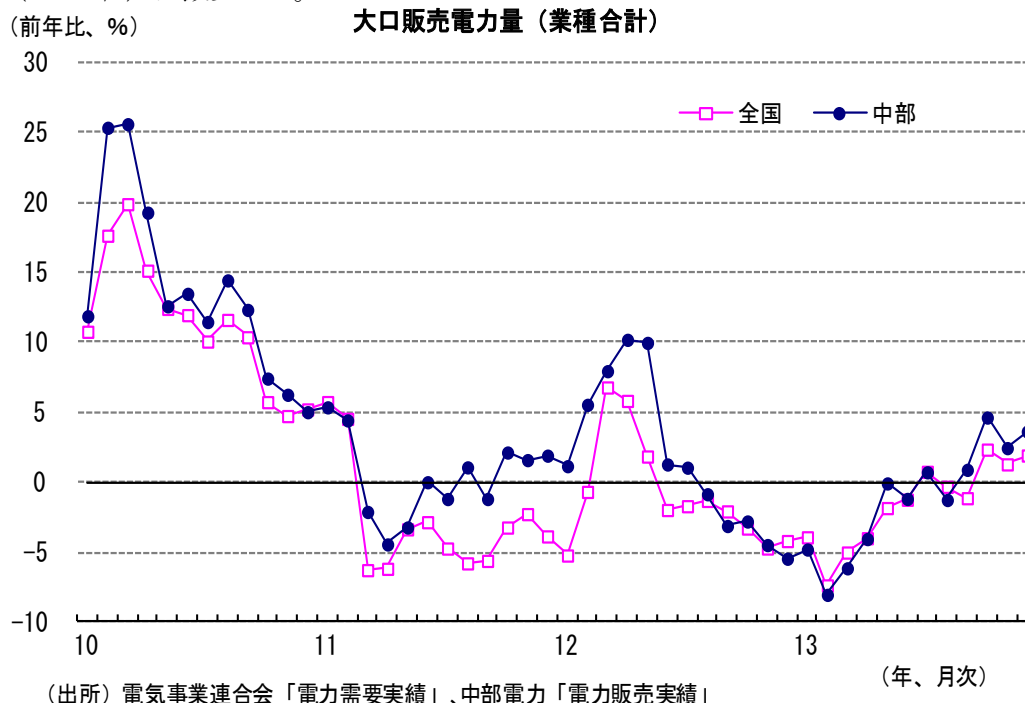


(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値

(注2) 中部5県=愛知、岐阜、三重、富山、石川。

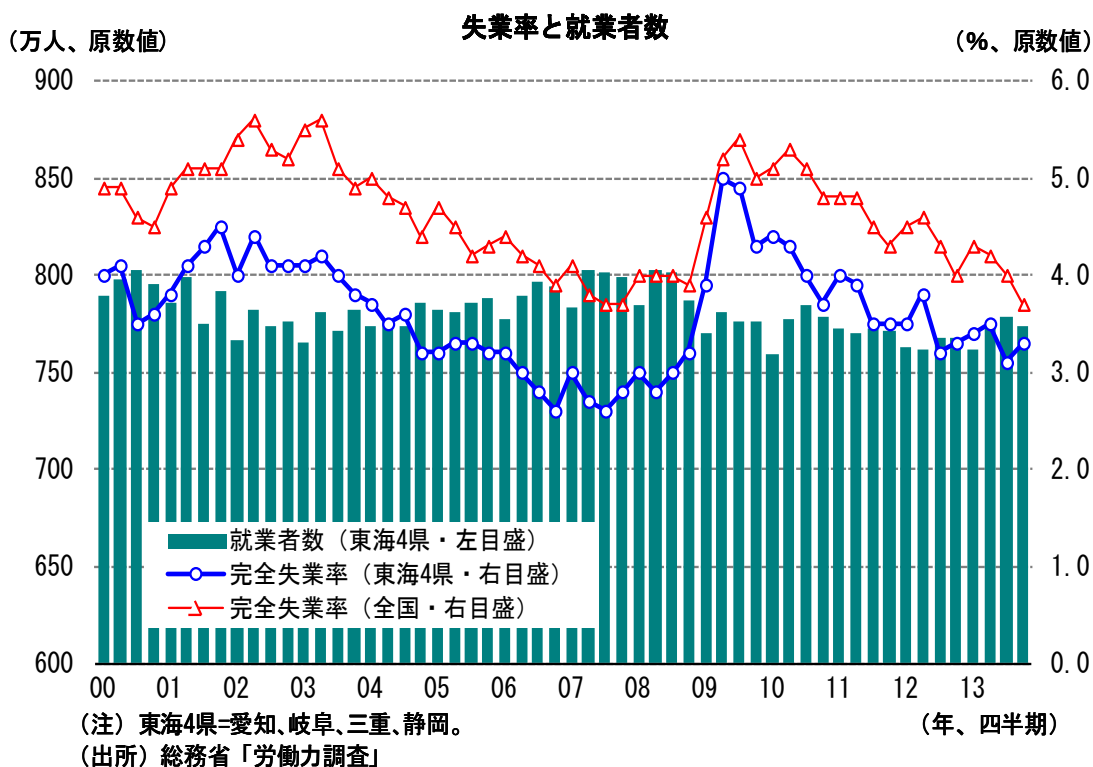
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

○12月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、前年比+3.7%と4ヶ月連続で増加した。機械工業向けは同+5.5%と6ヶ月連続で増加した。鉄鋼業向けは、自動車向け鋼材や建築向け鋼材の生産増が続いており、同+8.9%と4ヶ月連続で増加した。一方で、窯業・土石向け（-0.9%）や化学向け（-1.9%）は減少した。

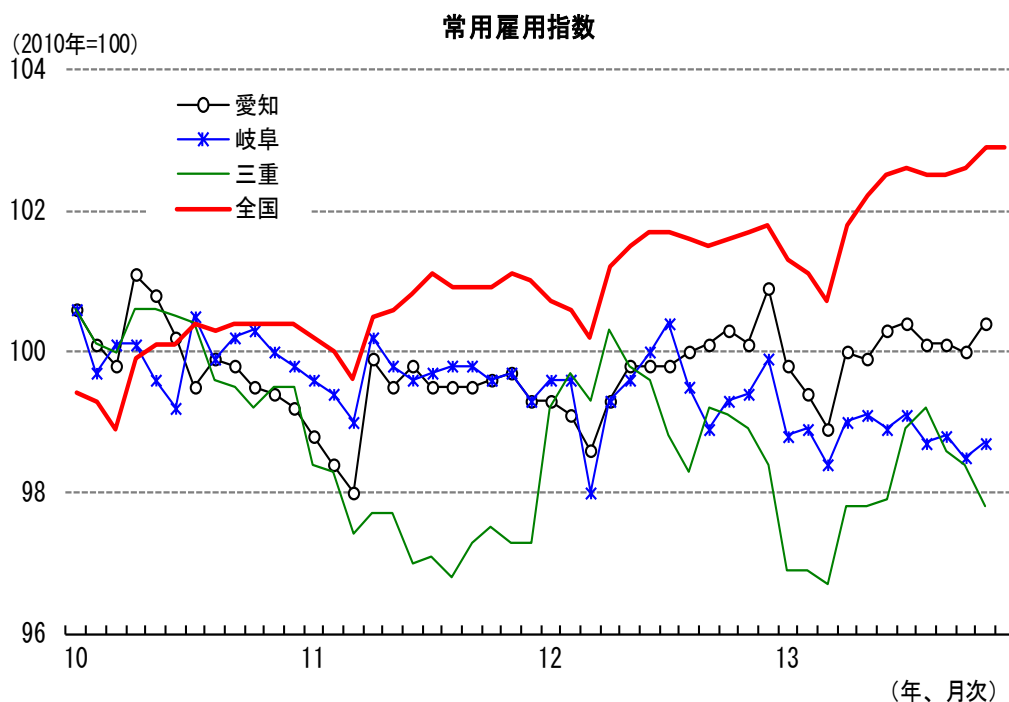


3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

○2013年10～12月期の東海4県の完全失業率は3.3%（前年差±0%ポイント）と全国（3.9%）と比べて低水準で推移している。一方、同時期の就業者数は前年差6万人の増加となった。常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いているが、足元では愛知県がやや上昇している。有効求人倍率は、小幅ながらもじりじりと水準を切り上げている。

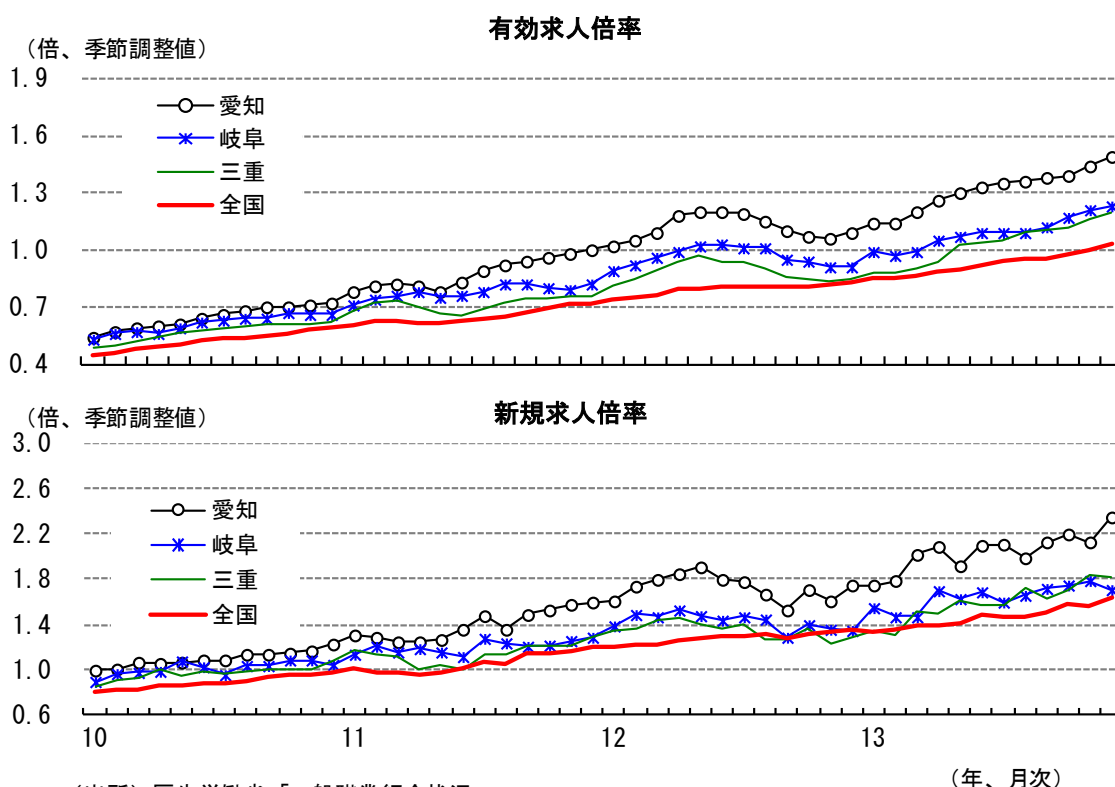


○11月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県は前年比+0.3%と2ヶ月ぶりに上昇した。岐阜県は同-0.7%と8ヶ月連続で低下し、式年遷宮などにより宿泊・飲食などの観光関連が好調だった三重県も同-1.1%と3ヶ月連続で低下した。3県ともに、全国（同+1.2%）に比べて弱い動きが続いている。



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、各都道府県「毎月勤労統計調査地方調査」

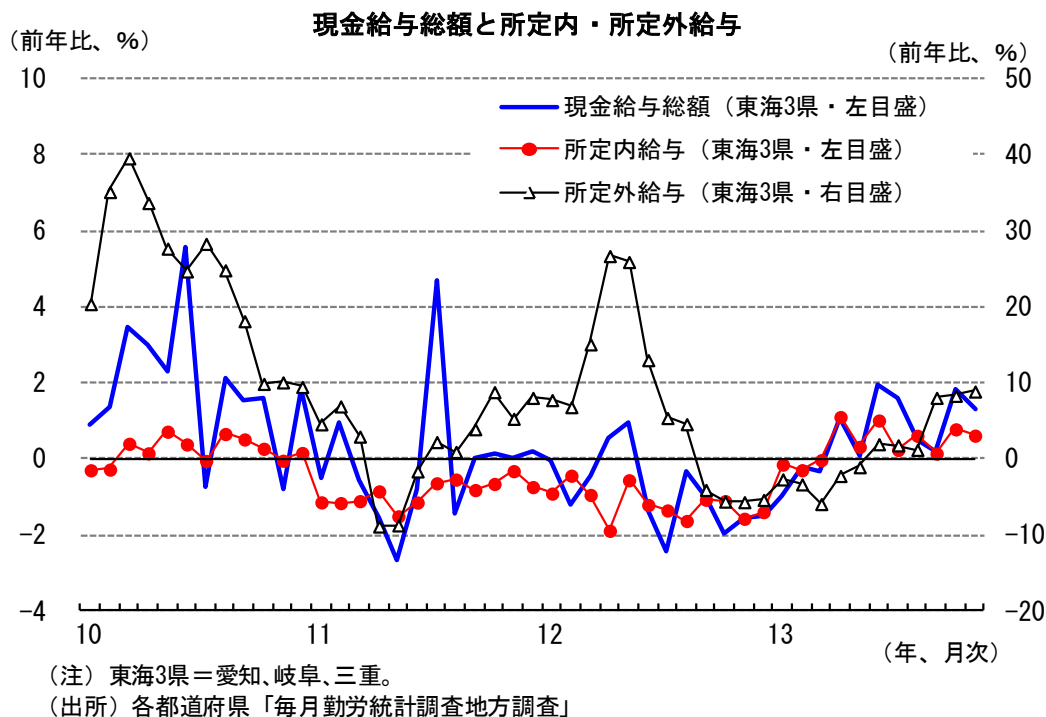
○12月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知県が自動車など製造業を中心に13ヶ月連続で改善し1.49倍となった。三重県は1.19倍と10ヶ月連続、岐阜県は1.23倍と13ヶ月連続で改善した。新規求人倍率（同）は、愛知県が2.35倍と2ヶ月ぶりに改善したが、岐阜県は1.71倍、三重県は1.82倍とそれぞれ2ヶ月ぶりに悪化した。



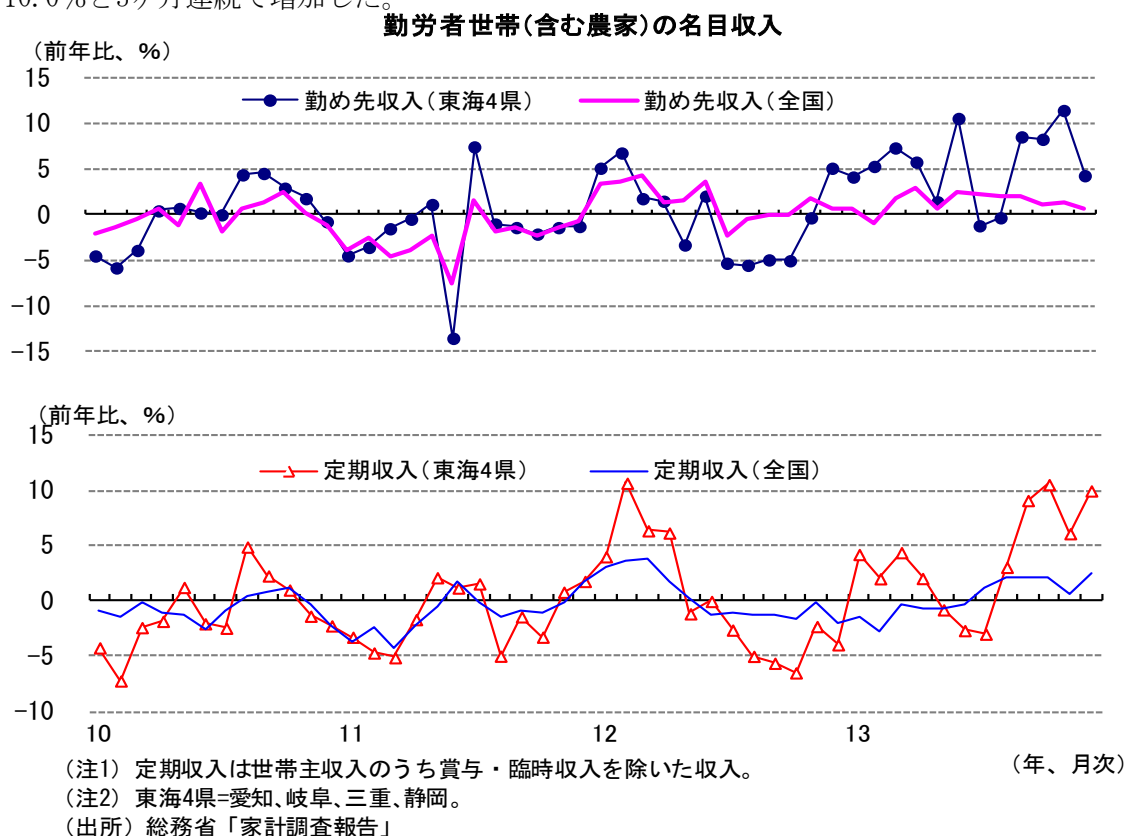
(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

4. 賃金 ～緩やかに持ち直している

○11月の一人当たり現金給与総額は前年比+1.3%と増加し、8ヶ月連続のプラスとなった。所定内給与は同+0.6%と8ヶ月連続で増加し、所定外給与も同+8.9%と6ヶ月連続で増加した。企業の人件費抑制姿勢は依然として根強いが、大企業を中心に、夏に続いて冬の賞与も増加するとみられるほか、春闘で定昇に加え、ベアに应じる企業も増える見通しで、賃金は持ち直し傾向が続くだろう。

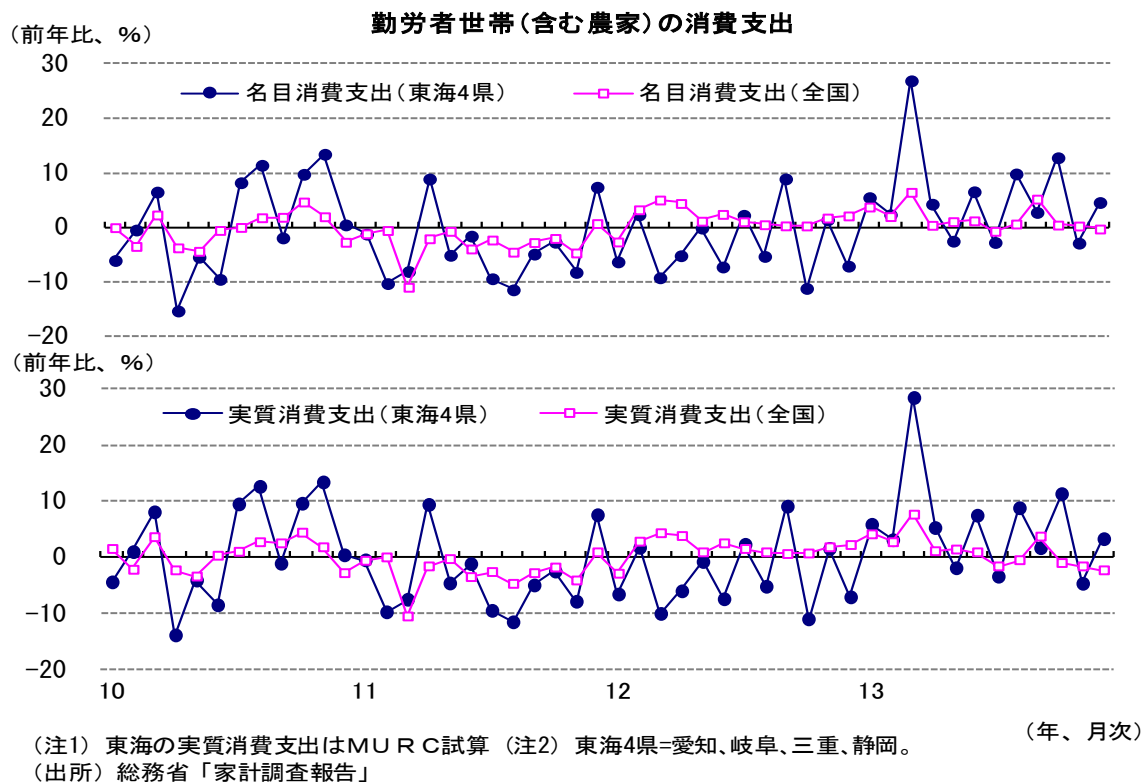


○家計調査によると、12月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比+4.3%と4ヶ月連続で増加した。12月の定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は前年比+10.0%と5ヶ月連続で増加した。

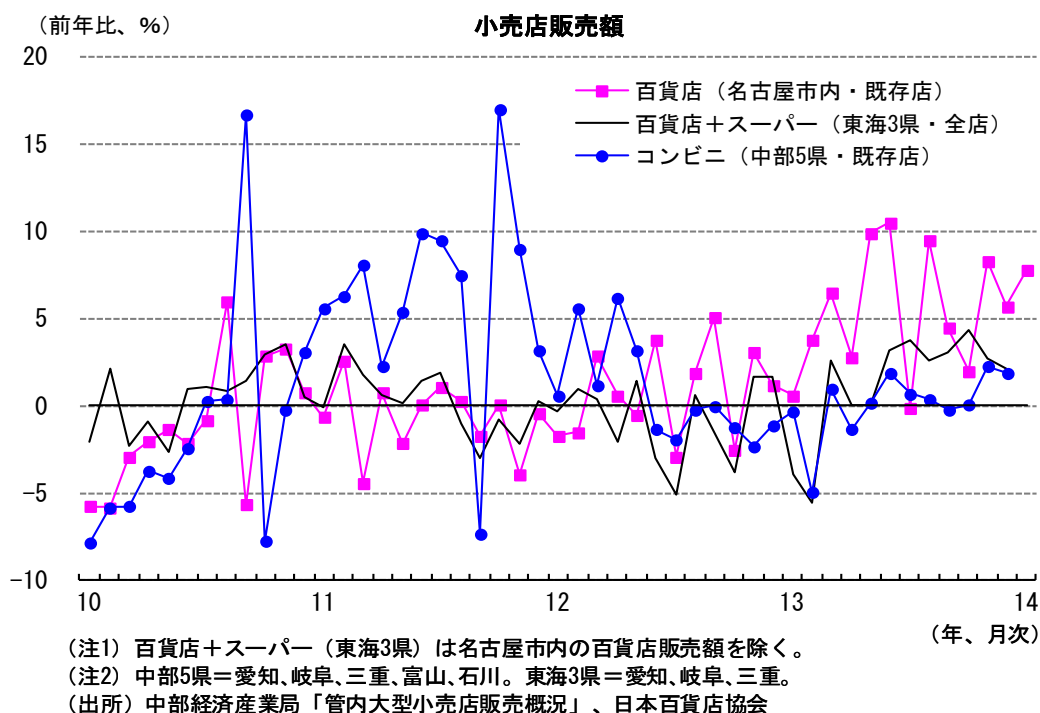


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

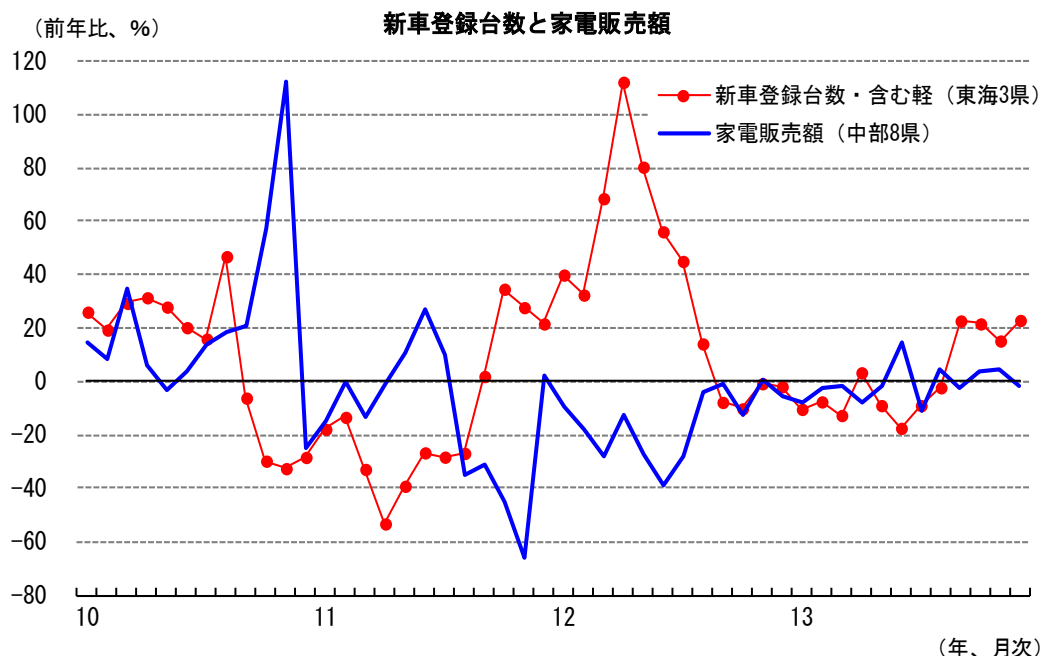
○12月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は、前年比+4.6%と2ヶ月ぶりに増加した。消費者マインドが比較的高い水準を維持する中で、名目・実質消費支出とも均してみると緩やかに持ち直している。12月にかけても平均株価の上昇が続いたことから高額消費が好調を維持し、冬のボーナス増加を背景に年明けの正月商戦でも消費の緩やかな持ち直しが続いている。



○1月の名古屋市内の百貨店販売額は前年比+7.8%と6ヶ月連続で増加した。年明け以降、株価が乱高下し、下落基調に転じていたが、冬のボーナスの増加もあり、高級時計や宝飾品、ブランド品などの高額品が堅調だった。12月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額は同+2.2%と10ヶ月連続で増加し、中部5県のコンビニ販売額は同+1.9%と3ヶ月連続で増加した。



○12月の東海3県の新車登録台数（乗用車、含む軽）は、前年比+23.0%と4ヶ月連続で増加した。駆け込み需要に加え、新車投入効果によりハイブリッド車やコンパクトカーの販売が好調に推移している。年度中は、駆け込み需要が続く、堅調に推移するとみられる。一方、12月の中部8県の家電販売額は、同一1.9%と3ヶ月ぶりに減少した。

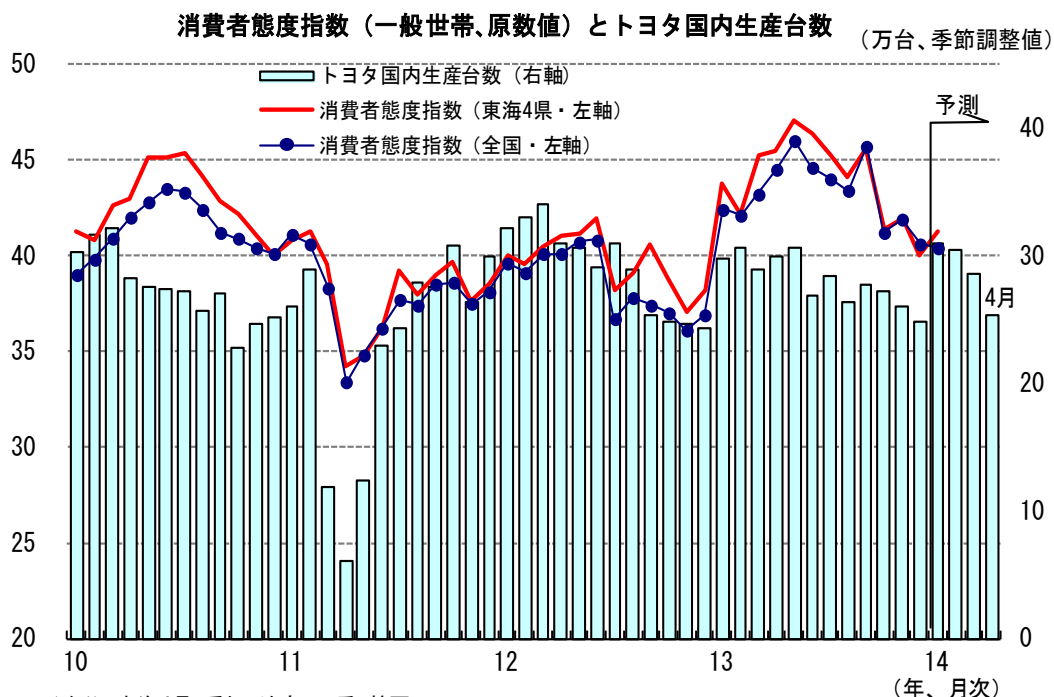


（注1）中部8県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、静岡、長野の8県全店ベース。

（注2）東海3県＝愛知、岐阜、三重。

（出所）日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

○消費者マインドを表す1月の消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は、前月比+1.2ポイントと、2ヶ月ぶりに改善した。年明け以降、株価は下落基調となったものの、トヨタの生産水準が上昇したこともあり、消費者マインドは再び改善した。4月以降は消費増税に加え、駆け込みの反動による生産減が見込まれ、消費者マインドも再び低下することが懸念される。



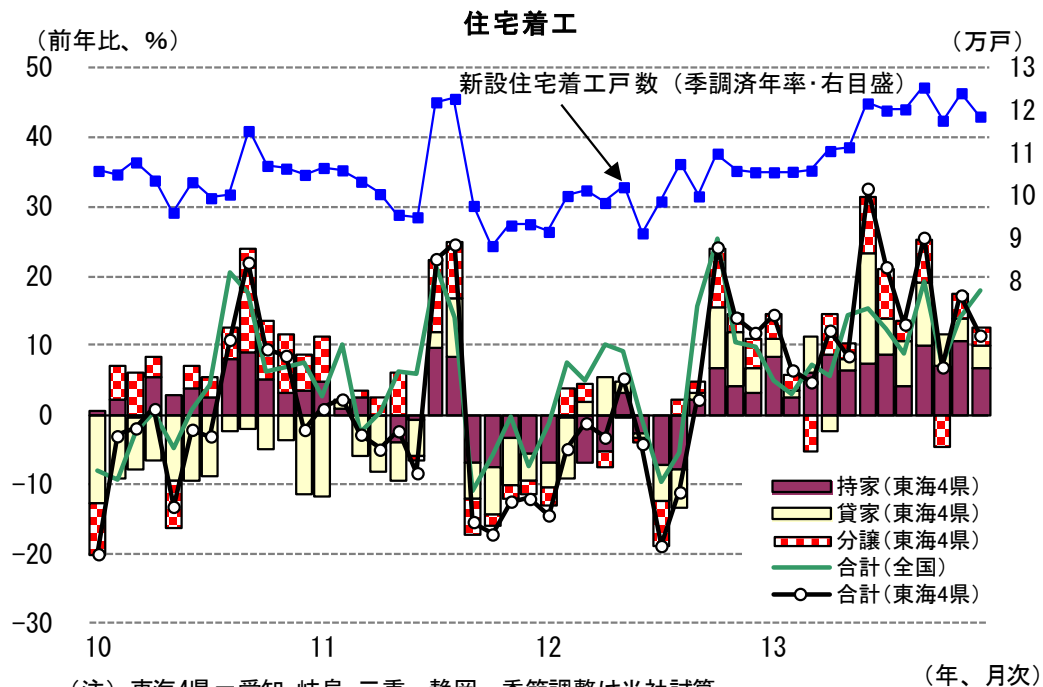
（注1）東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。

（注2）トヨタ国内生産台数はMURCにて季節調整。

（出所）内閣府「消費動向調査」、トヨタ自動車生産「国内販売・輸出実績」
中部経済新聞「トヨタ生産計画」

6. 住宅投資 ～持ち直しが一服している

○12月の東海4県の住宅着工戸数（季調済）は、前月比－4.4%と2ヶ月ぶりに減少した。前年比では、+11.5%の10,174戸と16ヶ月連続のプラスとなった。利用関係別の寄与度は、持家が前年比+6.9%、貸家が同+3.2%、分譲は同+2.4%と増加に寄与した。9月末の契約ベースでの現行税率適用期限前の駆け込み需要が一段落した後も、着工ベースでは比較的高い水準で推移している。

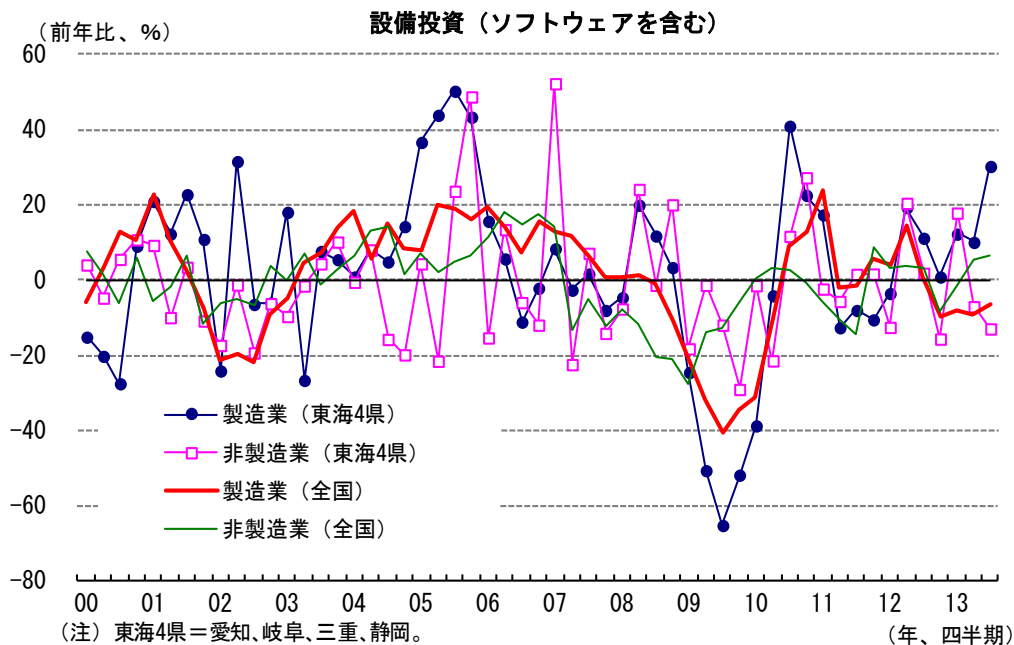


(注) 東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社試算。

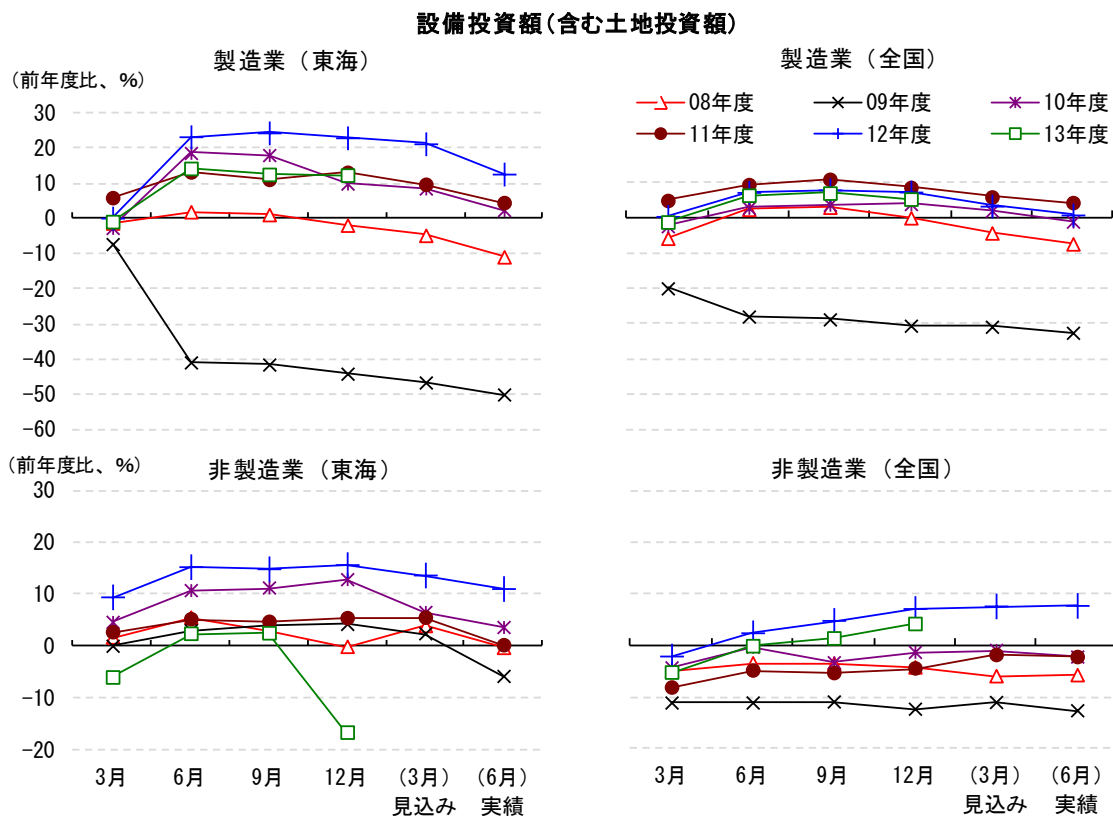
(出所) 国土交通省「建設着工統計」

7. 設備投資 ～製造業を中心に増加している

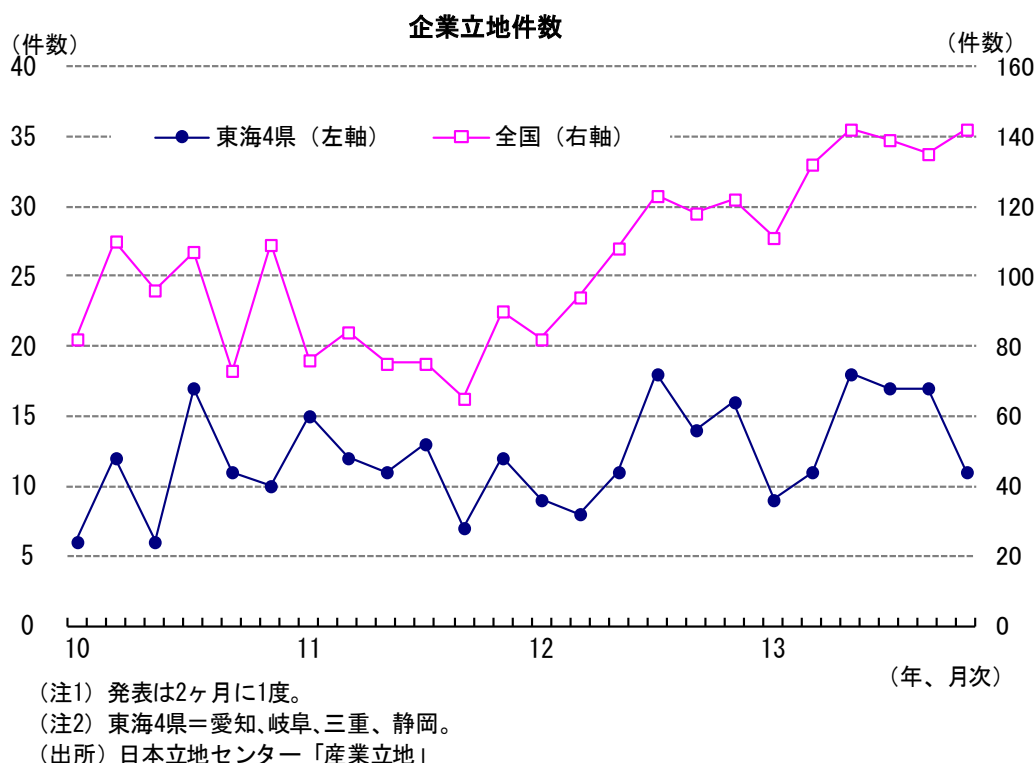
○2013年7～9月期の東海4県の設備投資（ソフトウェアを含む）は、前年比+7.4%と3四半期連続で増加し、増加幅も前期4～6月期（+1.3%）から拡大した。非製造業の設備投資が前年比-12.9%と減少したものの、製造業が前年比+30.3%と大幅に増加した。全国は非製造業の設備投資を中心に増加しているが、東海では製造業が全国より強い動きとなっている。



○日銀短観12月調査では、13年度通期で製造業が前年比+12.4%と増加見込みだが、非製造業は9月調査の同+2.5%から12月調査では同-16.6%と減少見込みに転じている。業種別にみると電気・ガスの下方修正が響いており、東海の設定投資は製造業中心の動きとなっている。

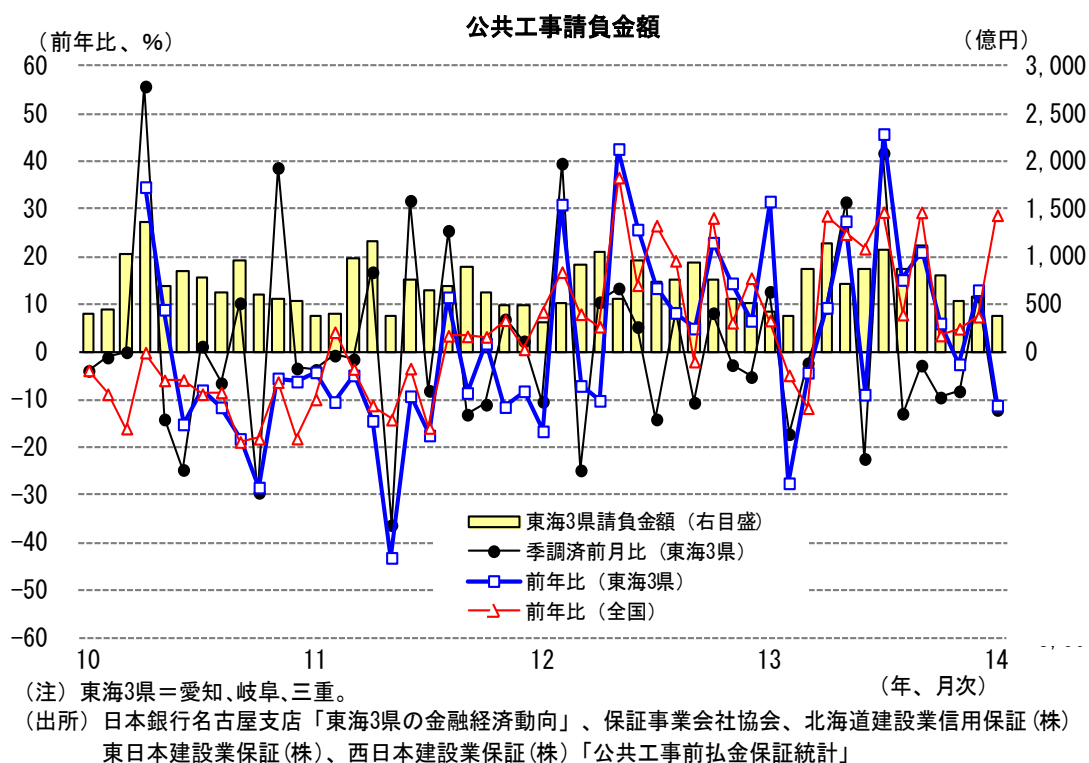


○2013年10月・11月の東海4県の企業立地件数は11件と、前期（17件）から6件減少し、前年同期（16件）と比べて5件減少した。東海地域では、2012年以降、円高定着などもあり製造業を中心に全国と比べて企業立地件数が伸び悩んでおり、依然として全国比弱めに推移している。



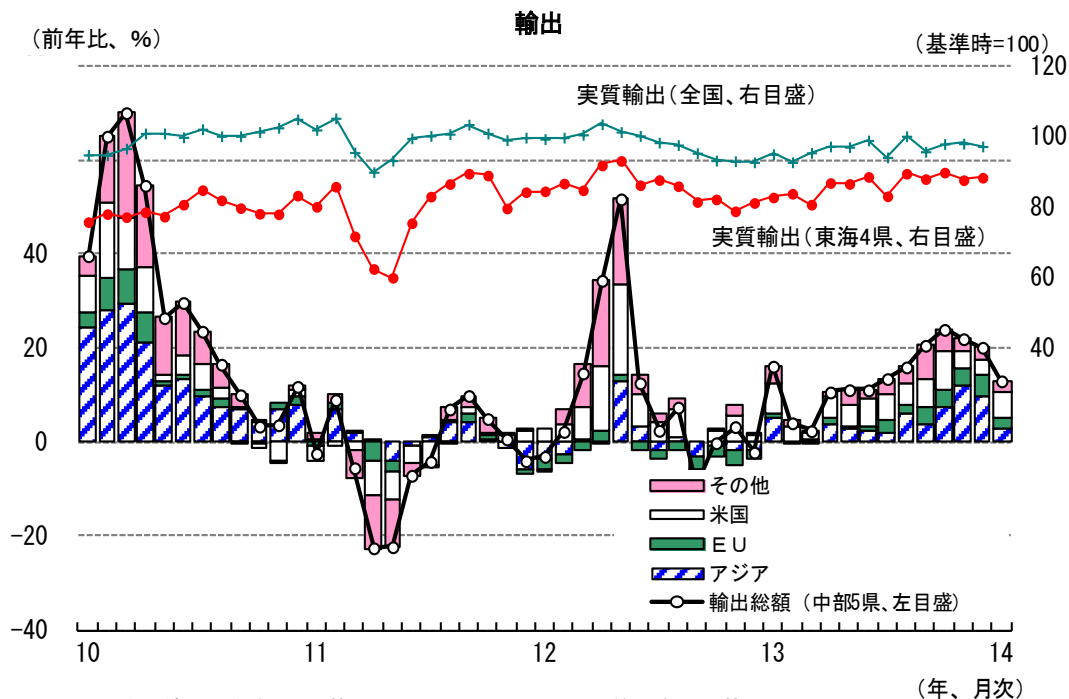
8. 公共投資 ～増加が一服している

○1月の東海3県の公共工事請負額は、前年比－11.2%の372億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。発注者別では国が同－24.3%と2ヶ月ぶりに減少したほか、地方も同－5.8%と2ヶ月ぶりの減少となった。12年度の国の補正予算の執行に伴う緊急経済対策に係る工事の請負は一段落している。季調済み前月比も－12.1%と2ヶ月ぶりに減少に転じた。



9. 輸出入 ～輸出、輸入ともに横ばい

○12月の実質輸出（季調済）は、前月比+0.8%と小幅ながら2ヶ月ぶりに増加したが、横ばい圏で推移している。1月の名古屋税関管内の輸出額は、前年比+13.0%と13ヶ月連続で増加したが、伸びは鈍化した。米国向けが同+23.3%と16ヶ月連続、アジア向けが同+7.6%と13ヶ月連続で増加し、EU向けも同+17.3%と10ヶ月連続で増加した。今後も横ばい圏での推移が続くと予想される。

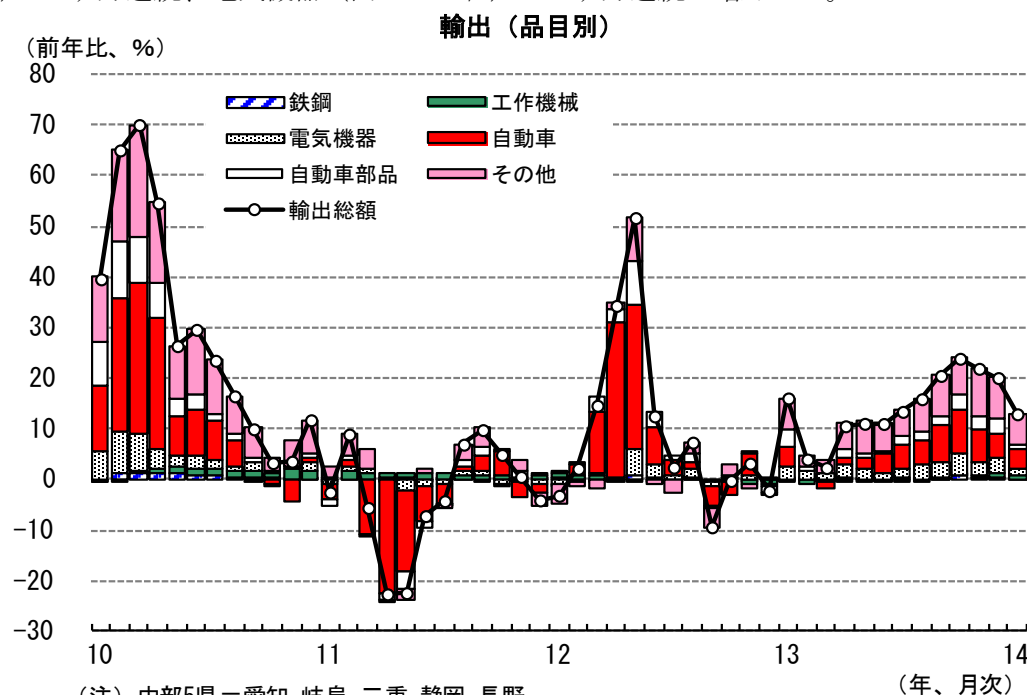


(注1) 実質輸出＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。

(注2) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

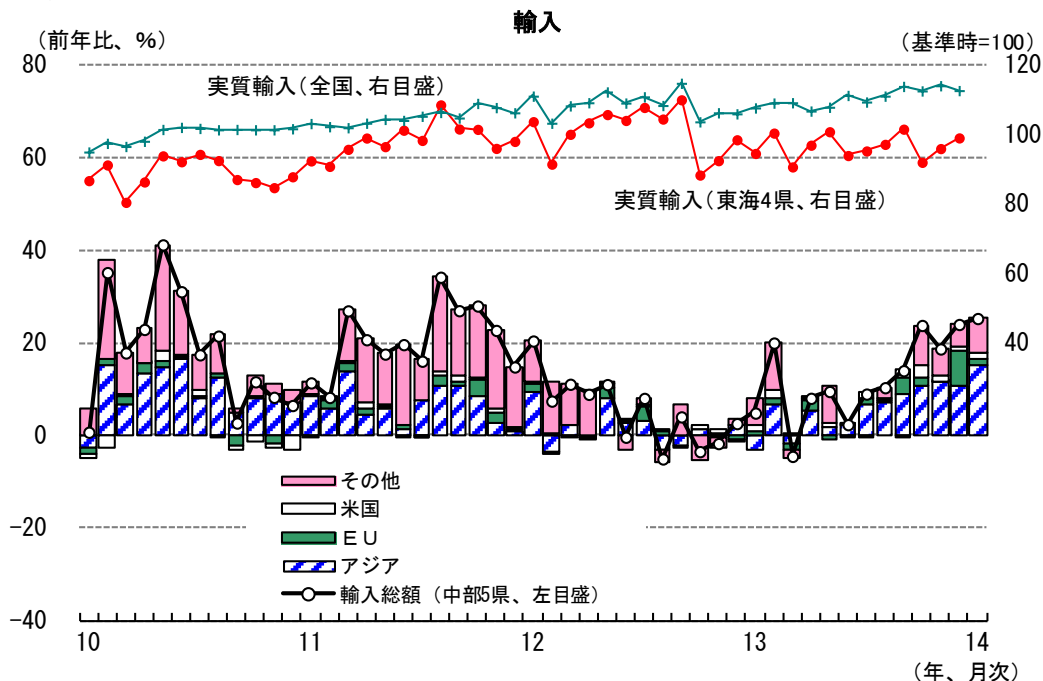
○1月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、主力の自動車（前年比+13.5%）や自動車部品（同+5.0%）の増加が寄与し全体をけん引したほか、鉄鋼（同+6.0%）も7ヶ月連続、工作機械（同+21.2%）が5ヶ月連続、電気機器（同+11.6%）が13ヶ月連続で増加した。



(注) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」

○12月の実質輸入（季調済）は前月比+3.2%と2ヶ月連続で増加した。12年10月の地球温暖化対策税の導入前の駆け込み輸入の反動により減少した後は、変動しながらも総じて横ばい圏の動きが続いている。1月の名古屋税関管内の輸入額は前年比+25.3%と10ヶ月連続で増加した。今後も為替相場や資源相場の影響はあるものの、実質輸入は横ばい圏での推移が続くと見込まれる。



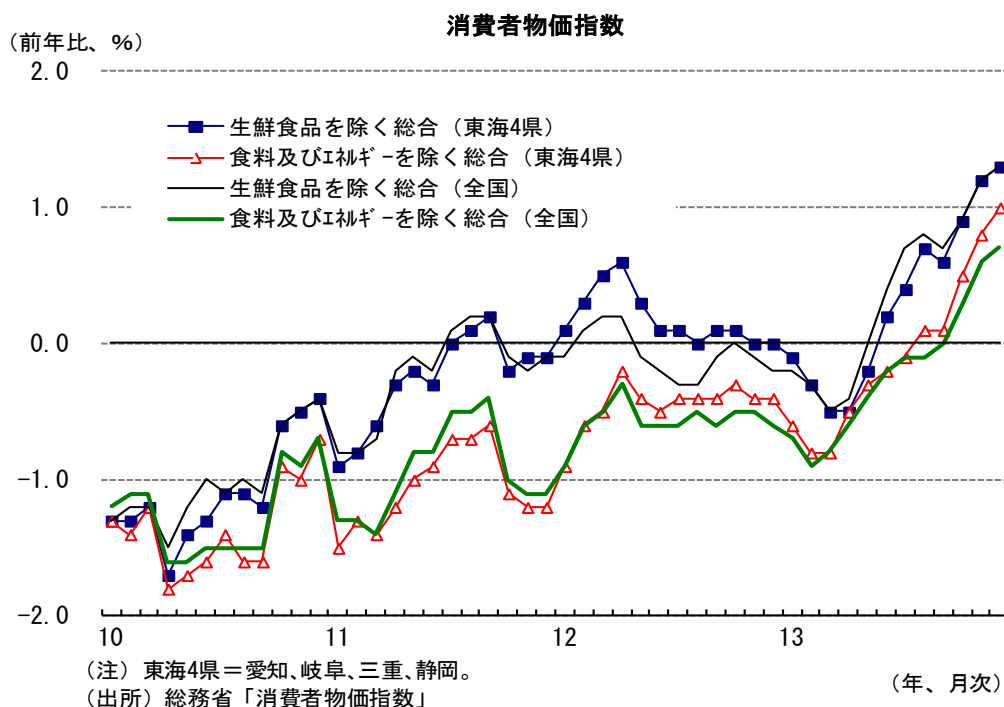
(注1) 実質輸入＝東海4県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2010年。

(注2) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」
日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」

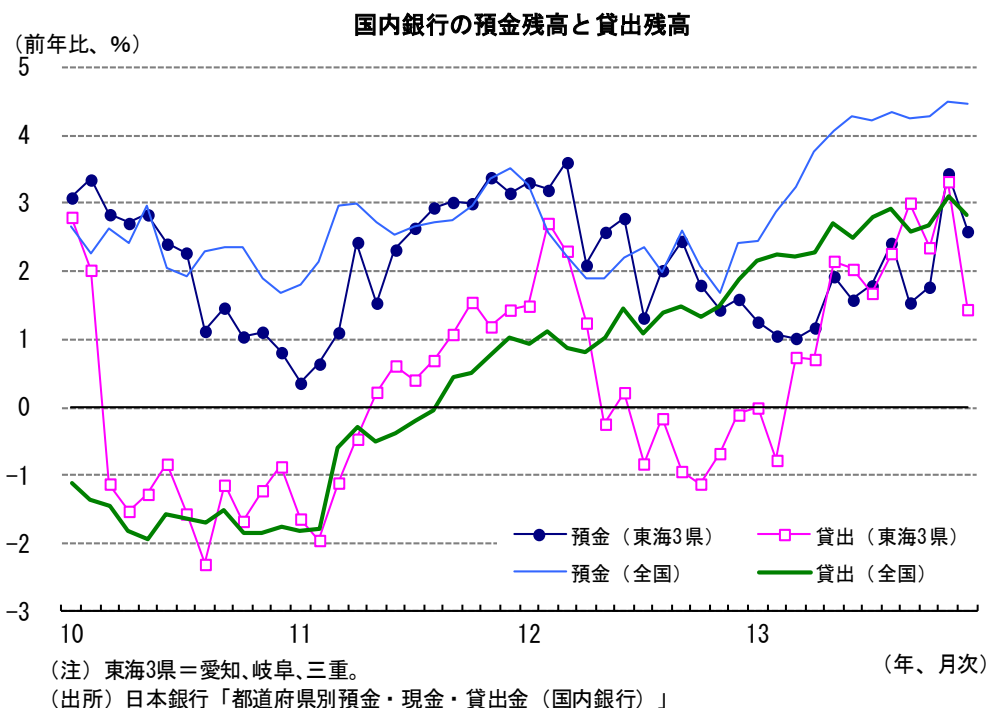
10. 物価 ～消費者物価は上昇

○12月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で、前年比+1.3%と7ヶ月連続でプラスとなった。電気・ガス料金やガソリン代の上昇が寄与した。食料・エネルギーを除く総合でも同+1.0%と5ヶ月連続のプラスとなった。輸入物価上昇に伴うコストアップ要因に加え、需給の引き締まりにより幅広い品目で値上げが見込まれるため、今後も、物価は上昇傾向が続くとみられる。



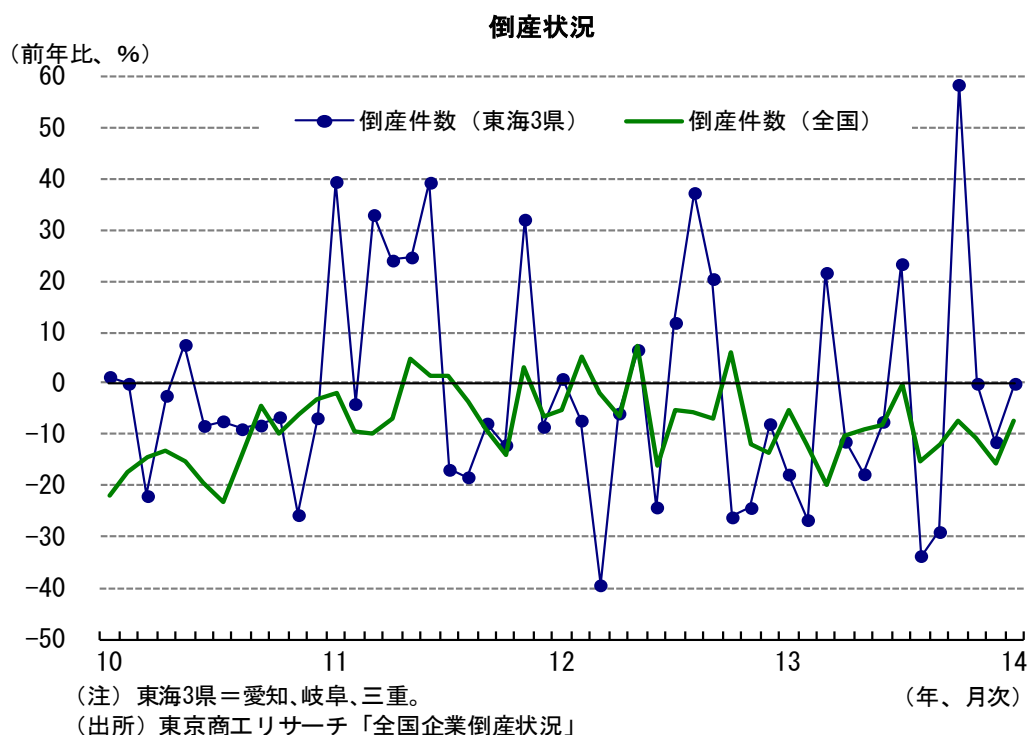
11. 金融 ～預金、貸出ともに増加

○12 月の東海 3 県の預金残高（国内銀行ベース）は、個人預金が堅調に推移し、前年比+2.6%と安定して増加している。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は、同+1.5%と 10 ヶ月連続で増加したが、一部企業でのM&A関連の大口貸出の寄与が一巡し、増加率は縮小した。今後は 1 月からの自動車増産局面で設備投資などの資金需要が見込まれるため、貸出残高の増加基調が続く可能性が高い。



12. 倒産 ～倒産件数は横ばい、負債総額は減少

○1 月の東海 3 県の倒産件数は、88 件と前年比で横ばいとなった。愛知県（同 0.0%）は横ばい、岐阜県（同-31.6%）は 4 ヶ月ぶりに減少、三重県（同+120.0%）は 3 ヶ月ぶりに増加した。引き続き小規模事業者の倒産が目立ち、業種別では建設、小売業の倒産が多い。1 月の東海 3 県の負債総額は、同-21.4%の 108 億円と 2 ヶ月連続で減少した。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		→	輸出	全国	→		↗
	東海	→		↘		東海	→		→
	関西	↗		→		関西	→		↗
個人消費	全国	↗		↘	輸入	全国	↗		→
	東海	↗		↘		東海	→		→
	関西	↗		↘		関西	↗		↗
住宅投資	全国	↗		→	生産	全国	↗		→
	東海	→		↘		東海	→		↘
	関西	↗		↘		関西	↗		↗
設備投資	全国	→		↗	雇用	全国	↗		↗
	東海	↗		→		東海	↗		→
	関西	↗		↗		関西	↗		↗
公共投資	全国	↗		→	賃金	全国	→		→
	東海	→		→		東海	↗		↗
	関西	↗		→		関西	↘		→



: 晴れ



: 薄日



: 曇り



: 小雨



: 雨

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

3. 全国は12月3日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		1月のコメント	2月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	緩やかに持ち直している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	下げ止まりつつある	下げ止まりつつある
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	増税前の駆け込み需要もあり増加している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	横ばい	横ばい
	東海	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	関西	増加傾向にある	増加傾向にある
7. 設備投資	全国	増加が一服	増加が一服
	東海	製造業を中心に増加している	製造業を中心に増加している
	関西	非製造業を中心に持ち直している	非製造業を中心に持ち直している
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加している	増加が一服している
	関西	増加している	増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しが一服、輸入は増加傾向	輸出は持ち直しが一服、輸入は増加傾向
	東海	輸出は持ち直し傾向、輸入は横ばい	輸出、輸入ともに横ばい
	関西	輸出、輸入ともに持ち直しの動き	輸出は横ばい、輸入は持ち直しの動き
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価はともに上昇	国内企業物価、消費者物価はともに上昇
	東海	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
	関西	消費者物価は上昇	消費者物価は上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は横ばい、負債総額は減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。